

産褥早期における電話訪問の効果に関する検討

-退院後のメンタルヘルスケアの充実を目指して-

1. 研究の対象

平成29年4月～平成30年3月に三菱京都病院で分娩した褥婦（※総分娩数550件）

2. 研究目的・方法

マタニティー・ブルーズは、産後3～10日以内に始まり産後2週間以内におさまる一過性の抑うつ状態であり、マタニティー・ブルーズ症状があった女性は産後うつ病を発症するリスクが高まると言われている。厚生労働省が発表した平成28年度の国民生活基礎調査によると、核家族世帯は全体の80.5%を占め、更に合計特殊出生率は1.44と一人の女性が生涯に産む子供の数は低下している。これは核家族化に伴う身近な育児相談相手の減少と、育児経験の少ない母親の増加を示していると考えられる。

また、近年育児不安を抱えて自己解決できない母親が多い。亀井らは、これまでに直面した問題を解決できたという意識の高い人は、低い人に比べて不安得点が有意に低くなる、倉本は育児不安の解消には対処行動が重要であり、母親は実際に生じている問題を自分で解決することにより不安が軽減するとも述べており、マタニティー・ブルーズを発症しやすい時期である退院後早期の精神的支援が必要であると考えた。

三菱京都病院では育児不安を抱えた退院後の褥婦の電話相談を外来当直看護師が対応していたが、産後育児不安の減少を目的として、平成29年9月より入院中の様子を把握している病棟に勤務する看護職者で分娩に携わった助産師もしくは看護師（以下プライマリーナースとする）が退院後早期に行う産後電話訪問を開始した。退院後早期の電話訪問により育児不安の軽減の効果を検討し今後の電話訪問の課題を明らかにすることを目的とし、今研究に取り組むこととした。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

平成29年4月～8月を「産後電話訪問開始前群」、平成29年9月～平成30年3月を「産後電話訪問開始後群」とする。尚、2週間健診を受診しなかった褥婦は除外とする。

両群ともに2週間健診・1ヵ月健診に来院した褥婦にEPDSを記入してもらい、回収・集計した。

電話訪問開始前の「産後電話訪問開始前群」では、各EPDSの得点をカルテより後方視的に集計した。

電話訪問開始後の「産後電話訪問開始後群」では、プライマリーナースが産後電話訪問の希望を確認し、退院前に抱えている育児不安内容についてテンプレートを基に情報を収集した。尚テンプレートは、産後電話訪問開始前に三菱京都病院外来当直看護師を対象にインタビューを行い、退院後の褥婦から受けた電話相談内容を調査した結果を基に独自で作成した。退院後3日目を目安にプライマリーナースが産後電話訪問を行い、退院前に聴取された不安内容に関する現状把握と新たな不安の有無について確認し、保健指導を行った。

介入開始前群・開始後群ともにEPDSが9点以上もしくは質問項目10に該当した場合は赤ちゃんへの気持ち質問表（Bonding）も記入してもらった。

4. 外部への試料・情報の提供・公表

得られたデータからは個人が特定されないよう個人情報の保護に配慮する。EPDS用紙の回収後は速やかに電子カルテに入力し、質問用紙は事務処理後シュレッダーにかけ、得られたデータは本研究以外には利用しないこととする。

【連絡・問い合わせ先】

この研究に関する相談やお問い合わせ（研究資料の入手方法を含む。）、またはご自身の診療情報につき開示のご希望がある場合は、下記連絡先までご連絡ください。なお、この研究の対象者となることを希望されない場合は、お申し出ください。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

三菱京都病院 看護部 川西 久美子

〒615-8087 京都市西京区桂御所町1番地

電話 075-381-2111（代）